

これからのために

水道の施設もいつかは古くなって使えなくなるときが来ます。これからもずっと水道を安心して使い続けるためには、施設を新しくするなど、しなければいけない仕事がたくさんあります。

ボクたちがおとなになっても水道を安心して使えるようにするためだね。



古くなった浄水場を新しくします

札幌市の5つの浄水場のうち、白川浄水場、定山溪浄水場の2つは、建てられてから30～50年以上たっており、建物や設備が古くなっています。

これからも安全でおいしい水道水をみなさんにとどげるために、修理や建て直しを行っています。



西野浄水場の改修工事の様子
【令和元(2019)～5(2023)年】

将来のために必要なお金を準備します

水をむだに使わないように心がけている人が増えてきていることや、これから札幌市の人口が減っていくと予想されることから、使われる水の量も減ると予測しています。

このため、水道局が受けとる水道料金も減っていくと予測しています。

しかし、これからいくつもの水道施設を新しくしたり耐震化したりするには、たくさんのお金がかかります。そのため、水道局では、仕事にかかるお金の使い方を工夫して、余分なお金を使わないように努力して、将来のために必要なお金を準備しています。



札幌の水道を支える人を育てます

水道の仕事を行うには、浄水場の運転や配水管の維持管理など、特別な技術や知識が必要です。このため、職場で研修を行うことにより、職員は技術や知識を習得して、札幌の水道を支えています。

また、経験豊かな職員がもつ技術や知識が失われないよう、研修教材として資料にまとめたり、作業のようすを映像として記録したりしています。この教材を使って研修を行うことで、正しい知識や技術を未来に伝えることができます。



なぜなにコーナー



Q 水道水を1m³(立方メートル)つくるのにいくらかかるの？

A 1m³の水道水をつくるためのお金のことを生産原価といいます。令和6(2024)年度の実産原価は208円です。



札幌の水道技術を世界に伝える活動を行っています

国際協力機構(JICA)に協力して、開発途上国で水道の仕事をする人たちに技術や知識を伝える研修を行っています。



もっとくわしく

